

# 会議結果のお知らせ

## 開催した会議の名称

別府市図書館・美術館整備構想策定等支援業務委託検討委員会 第6回会議

## 開催日時

平成31年2月22日（金）16:00～17:50

## 開催場所

別府市役所5階 教育委員会室

## 出席者

委員 塚田俊三、中野伸哉、中山昭則、平石栄二、阿南寿和、原田勲明、稲尾隆  
事務局 高橋修司社会教育課長ほか2名、受託事業者 OpenA3 名

## 次第及び議題

次第（PDF①）

（1）審議

① 報告書案について

## 主な審議内容及び会議録の概要

次第に基づき、議題について事務局から説明し、委員から意見を徴した。

### 【事務局説明】

- 前回会議での指摘を受け、新たな施設を定義する章を第5章として追加した。歴史的、文化的にも生活に根付いた温泉のように日常的にボーダレスに多様な人を寛容する場、別府ならではの地域性、市民が理解しやすいように横文字より日本語で表現することを念頭に、定義の一例として「混浴図書館」と仮提案する。
- 多様な事業者が介入しやすい事業スキーム作りには、来年度引き続きオープンプラットフォーム会議を複数回開催し、市民に対して事業の情報共有を図るとともに、併せて事業候補を見つけていく計画である。

### 【委員の主な発言要旨】

## 1 新しい定義について

- 新たな図書館の概念を伝えるうえでは、「混浴図書館」は面白い発想であるし言い得て妙だとは思いますが、言葉の捉え方が人によって様々である点が懸念される。「知の拠点」とは異なる印象を与えかねない。
- 「混浴のような」という概念は、本文中に入れると良い。
- キーワードであれば、「オープン」、「ボーダレス」、「フュージョン」というワードでも代替できる。
- 名称を今決めずとも、概念を共有できればよい。これまでの議論をふまえ、「図書館・美術館」という役割や機能を細分化する既存の名称や考え方から抜け出した新しい名称が適当である。
- ネーミングの提案においては、こちらが説明するのではなく、相手からの質問を促すような名称の方が、一般の人には理解し定着しやすい。
- あまり、凝ったものではなく、例えば「次世代ライブラリー」などの簡易な名称の方がいい。

## 2 事業スキームについて

- 来年度事業スキームを検討するためには、今年度の報告書には、有効な手法についての比較検討を掲載しなければならない。
- 「ブロック型』『分散型』『レイヤー型』に加え、それをミックスするモデルとして「融合型」も有効な手法である。
- 事例紹介のページで、「混じる」という概念を反映させること。
- 幅広い民間事業者の参画を促すためには、行政と民間事業者が直接契約するのではなく、中間組織があることが望ましい。

## 3 報告書の調製について

- 内容の共有は図れたので、今後の最終調製に当たっては、委員長に一任する。

## 4 総論

- 「本を介してではなく、知の集まる場の提供、知的交流の場それを補助する形で本がある」という概念のもと、新たな施設は「単一的な機能や役割として存在するのではなく、既存の機能や役割に加え、多様性が凝縮され人と人、情報と情報が混ざり合う場所である。」と定義する。
- 来年度は、オープンプラットフォーム会議を複数回実施し、民間事業者の参画可能性について調査研究する。

以上